The Japan Lung Cancer Society

存中，残り2例はこれら治療で縮小効果がないにも拘わらず，長期生存中でSlow growing tumorの自然経過とも考えられた．

46．Ifosfamide投与時の出血性膀胱炎に対するmesnaの効果(pilot study)

国立がんセンター内科
桜井雅紀，山崎保寛，菅　純二
高橋秀暢，二見仁康．藤田次郎
佐々木康綱，江口研二
新海　哲，富永慶晤，西條長宏

肺非小細胞癌の症例10例に対して，Ifosfamide(IFX)のphase II Studyを行った．同時にIFXのDose Limity Factorである．出血性膀胱炎に対するMesnaの予防効果についてrandomiged studyにて検討した．

結果はPD 2例，NC 8例と有効例はみられなかった．一方Mesnaについては肉眼的血尿がMesna投与により有意に減少したが，膀胱炎にもとづく自覚症状の軽減には不十分であった．

今後も，IFXの抗腫瘍効果およびMesnaの至適投与量について症例をかさね検討を加えたい．

印象記

第83回日本肺癌学会関東部会は，昭和60年6月8日(土)にエーザイホール(東京)で開催された．演題総数は46題で，その内訳は，肺結核と肺癌の合併例2題，腫瘍マーカーのNSEについて2題，良性腫瘍例9題，めずらしい症例13題，胸壁または縦隔の腫瘍5題，診断法5題，治療に関するもの10題であった．演題募集時に，肺または気管支原発の良性腫瘍例，肺癌の治療などを主題としたためか，多くの良性腫瘍例の報告がなされた．また治療面ではレーザー治療，放射線療法，化学療法などで長期生存の好成績を得た症例の報告，なお新化学療法剤Ifosfamideについての紹介がなされた(国立がんセンター内科桜井雅紀氏)．今後の肺癌の治療には集学的治療の検討が，大いに期待できると思われる．その他興味ある演題としては，胸部腫瘍性病変に対するシュアカット組織生検針の使用経験と題して，新しい生検針について山田啓司氏(東京都がん検診センター)によって発表された．この方法は被検者に対する傷害が少なく，診断率の高いことから，将来広く活用されるものと思われる．

雨天にもかかわらず多数の会員が出席され，熱心に討論が行なわれ，有意義に学会が運営されたことは，会員諸氏の協力によるものと深く感謝している．

(荻原正雄　記)

九州支部

□第25回
日本肺癌学会九州支部会

昭和60年6月22日
福岡市都久志会館
当番幹事　森脇　滉
(九州がんセンター院長)

1．Flow cytometryによる肺癌のDNA-RNA量解析

長崎大第1外科　山岡憲夫
田川　泰，宮下光世，原　信介
橋本　哲，伊藤重彦
吉田隆一郎，謝　家明
草野裕幸，岩本　勲，母里正敏
川原克信，綾部公懿，富田正雄

Flow cytometryを用い，肺癌24例の手術時標本よりAO染色法にてDNA-RNA量を解析した．Aneuploidyは70.8%で，multiploidyは20.8%であり，DNA量と進行度の相関は少ないが，RNA量ではI期に比しIII期が高く進行度と相関がみられた．

2．癌性胸膜炎における胸水中TNF測定

熊本大第2内科　吉永　健
西村弘道，冨野新八郎
高月　清
熊本中央病院　衛藤安広
中路丈夫，木山程荘，絹脇悦生
熊本済生会病院　赤星一信
中外製薬応用研究所　山本章博

我々は癌性胸膜炎8例にOK-432胸腔内投与し，胸水中TNFの経時変化をみた．活性は注入後2～5時間でピークに達し，24時間後には殆んど消失した．TNF活性と胸膜癒着効果には相関がなかった．

3．免疫賦活剤封入多糖コーティングリポソームによるマウス肺胞マクロファージの殺腫瘍能活性化の試み

NII-Electronic Library Service

The Japan Lung Cancer Society

長崎大第2内科　岡三喜男
河野謙治，神田哲郎，斎藤　厚
原　耕平
同　工学部　佐藤智典，砂本順三

免疫賦活剤(MA-CDA)封入多糖コーティングリポソームは，MA-CDA単独投与に比し，C57BL/6系で3LLに対し，高いAMφの抗腫瘍活性を誘導した．

4．肺癌患者のTリンパ球サブセットの検討

大分医大第2内科　田代隆良
黒田芳信，川崎紀則，山崎仁志
後藤陽一郎，後藤　純
明石光伸，那須　勝，糸賀　敬

未治療肺癌患者20例のTリンパ球サブセットをモノクロナール抗体を用いて解析した．臨床病期III・IV期群はI・II期群にくらべOKT3，OKT4，OKT8リンパ球数が減少していた．OKT4/OKT8比は両群に差はみられなかったが，治療により低下した．

5．原発性肺癌患者に対するOK-432負荷時の各種皮内反応の検討．

国療大牟田病院　川原正士
半井一郎，中村雅博，高本正祇
石橋凡雄，篠田　厚

OK-432を負荷した原発性肺癌患者に，SU-PS，DHA，PPDの皮内反応を施行した．化学療法後CR，PR症例におけるSU-PS皮内反応は，NC．PD症例と比較し増強する傾向にあった．紅斑の長径短径の和の1/2が30mm以上を示す場合は30mm以下の症例に比し予後良好の傾向にあった．

6．各種胸膜炎患者における胸水中CA125の検討

久留米大第I内科　光武良幸
広松雄治，最所正純，徳永尚登
市川洋一郎，加地正郎
同　第2病理　入江康司

各種胸膜炎患者85例について胸水中CA125を測定検討した．血清中CA125値は肺癌で53.6%の陽性率を示した．胸水中CA125値は，肺結核群は肺癌群に比して，有意に低値を示した．

7．原発性肺癌患者における腫瘍マーカーの検討

熊本市民病院呼吸器科
岳中耐夫，福田浩一郎
樋口定信，志摩　清

原発性肺癌患者において9種類の血清中成分を検討した．その結果，TPA，IAP，CEA，α_1-ATで高率に陽性を認めた．組織型別，臨床病期別に検討した結果でも同様でありこれら4種の項目は肺癌の腫瘍マーカーとして有用であるものと考える．

8．肺癌患者における血清NSEの腫瘍マーカーとしての意義について

九州がんセンター呼吸器部
本広　昭，岩崎昭憲，三宅　純
台丸尚子，一瀬幸人，野下貞寿
石田照佳，原　信之，大田満夫

小細胞癌患者(30例)の57%に血清NSEの上昇がみられ，小細胞癌の腫瘍マーカーとして充分に役立つと考えられた．CEAとの間に有意な相関はみられなかった．

9．原発性肺癌におけるNeuron specific enolase(NSE)の検討

長崎大第2内科　福田正明
鶴川陽一，松本好幸，河野謙治
岡三喜男，荒木　潤，峯　豊
神田哲郎，斎藤　厚，原　耕平
同　放射線部　計屋慧實

小細胞癌で81.3%(13/16)と最も高い陽性率を示し，とくに進行症例に高い値を示した．また，臨床経過とNSEとは相関があり，病変の進展及び治療効果の判定に有用であった．

10．肺癌における腫瘍マーカーの検討

熊本中央病院呼吸器科
絹脇悦生，衛藤安広，中路丈夫
木山程荘
熊本大第2内科　吉永　健
高月　清

健康人，良性肺疾患，原発性肺癌患者血清にてNeuron Specific Enolase(NSE)，扁平上皮癌関連抗原(TA-4)とCEAを測定した．NSEは非癌陽性0/35，小細胞癌陽性8/8，TA-4は非癌陽性2/35，扁平上皮癌陽性9/15，三法同時測定では肺癌陽性率は80%であった．

11．肺癌における癌性胸膜炎の検討

九州がんセンター呼吸器部
野下貞寿，石田照佳，岩崎昭憲
三宅　純，本広　昭，一瀬幸人
原　信之，大田満夫

組織型は腺癌が過半数である．Closed tube thoracostomy drainageをし，抗癌剤(Adriamycinが最も効果的)とN-CWSを注入する方法は，胸水コントロール率63%，有効期間は平均6ヶ月半で，50%生存期間は，無効群の3ヶ月の2倍以上であった．

12．癌性心のう炎に対するCisplatin注入療法の効果

産業医大呼吸器科　水野　修
楢原勝子，山崎　裕，原田　進
城戸優光
同　第2内科　宮崎信義
黒岩昭夫
同　病理　平岡克巳，馬場謙介

2例の癌性心のう炎(腺癌)に心のう穿刺排液後，Cisplatin 12.5mg～50mgを注入し，各々約100日と30日間再貯溜を認めなかった．Cisplatinによる全身的，局所的な副作用を認めず，剖検にて同療法の効果が確認された．

NII-Electronic Library Service